

震災後の水分補給・ストックに関する調査 Vol.3

**足りていますか!? 「常に備えている人」でもストック数は変化
水の備蓄量、震災直後よりもペットボトル約2本分減少
～スマートチェックで「常に」「適量」のストックがあるか確認を～**

キリンビバレッジ株式会社(社長 首藤 由憲)は、2013年2月、全国の小学生の子どもを持つ母親800名に対し、「震災後の水分補給とストックに対する意識調査」をインターネット調査にて実施いたしました。

調査結果から、“震災直後から昨年よりもムダのない備蓄をしよう”と考えている人は増えつつあり、節電意識も年々高まっていることがわかりました。しかし常にペットボトルウォーターをストックしている人でも、その平均備蓄量は震災直後よりもペットボトル約2本分も減少するなど、ストック量が決して十分ではない可能性も高いと考えられます。

※本調査における「ペットボトル●本」という表記は、すべて2リットルペットボトルによる換算本数です。

【基本調査概要】

調査方法 : インターネットアンケート
調査実施機関 : 楽天リサーチ株式会社
調査実施期間 : 2013年2月1日(金)～2月5日(火)
対象地域 : 全国
対象者 : 小学生の子どもを持つ母親800名
対象者年代 : 30歳～49歳

【調査結果サマリー】

①震災半年後よりも水の備蓄量はペットボトル約2本分減少。備蓄ゼロの家庭も半数近く。

震災から半年後の2011年夏に比べ、常にミネラルウォーターを備蓄している人のストック量はペットボトル2本近く減り、現在では7.91本(2リットルのペットボトル換算)となっていることがわかりました。また「ミネラルウォーターの備蓄をしていない」という家庭は震災前よりは減ったものの、現在でも半数近く(49.3%)いることもわかりました。

**②日頃の備蓄品、2012年は最多数がストックしていたものの、現在は減少傾向。
常にストックを切らさないよう心がけているのは東北～関西地方。**

ストック品別に各家庭の普段の備蓄状況を調べたところ、2012年はほとんどの品目で備蓄割合が高まっていました。しかし現在は震災直後と同様もしくはそれ以下の割合に落ち込んでいます。

居住地域別に備蓄意識を比較すると、ストックを切らさないように心がけたり、定期的買い換えているのは東北～関西地方に高い傾向が見られました。なお、最もまとめ買いをしている割合が高いのは関西地方で、全国平均の3倍近くにのぼります。

**③期限切れを起こしたことがある備蓄品、昨年に引き続き1位は「水」。
1年間でムダにした水は平均777.7円、昨年よりも404.4円減少。**

備蓄品の期限切れを経験したことがある人は14.6%で、最も期限切れを起こしていたのは昨年同様「水」という結果になりました。しかし期限切れした水は一人あたり777.7円と昨年よりも404.4円減少しており、大量のストックを一度にムダにする人は少なくなりつつあるようです。

④水の備蓄量が震災前よりも増えた理由、「災害時への備え」が大幅に上昇し 94.7%に。

現在、震災後よりも水の備蓄が増えた人のうち約95%が「災害時の備え」がその理由と回答。その割合は年々高まっており、ライフラインとしての水の重要性が認識されていることがうかがえました。

⑤節電意識は年々上昇。節電対策を実践している人は62.5%にも。

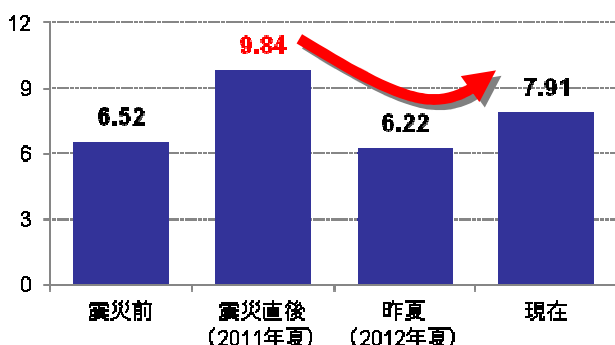
直近の数カ月、具体的な節電対策を行った人は62.5%。昨年、一昨年の冬と比較すると節電を実践している人は年々高まっていることがわかりました。なお、節電対策例としてはエアコンの使用時間を減らしているという回答が最も多く見受けられました。

①震災半年後も水の備蓄量はペットボトル約2本分減少。備蓄ゼロの家庭も半数近く。

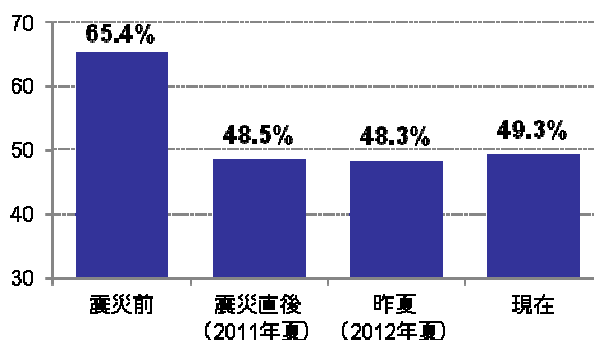
震災から半年後(2011年夏)、常に水を備蓄している一家庭あたりのストック量は、2リットルペットボトル換算で9.84本。それが昨夏には6.22本と実にペットボトル3.6本分も減少していました。現在の平均備蓄量は7.91本とやや回復していますが、震災直後に比べるといまだに約2本(3.86リットル)も減っていることになります。

さらに、「ミネラルウォーターの備蓄をしていない」という家庭は震災前(65.4%)よりは減ったものの、現在でも半数近く(49.3%)いることもわかりました。期限切れの恐れやストック場所の確保を考慮しつつ、ライフラインが止まった際にはどれくらいの水や食料が必要か、各家庭でもう一度見直す必要があるかもしれません。

普段、備蓄している2リットルペットボトル入りミネラルウォーターの数は？



普段、2リットルペットボトルミネラルウォーターを備蓄していない人の割合



(SA/FA、単位:本)
 ※震災前と現在は2013年1月での調査結果。
 震災直後は2011年8月、昨夏は2012年7月の調査結果より。
 n=常にペットボトルの水を備蓄している人
 277人[震災前]、69人[2011年]、445人[2012年]、406人[現在]

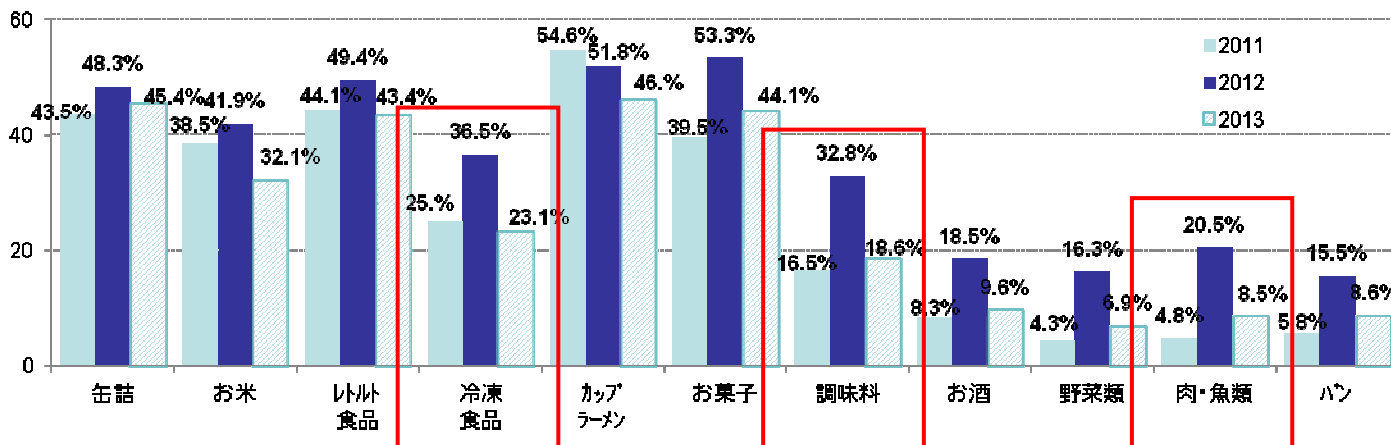
(SA、単位:%、n=800人)
 ※いずれも2013年1月での調査結果。

②日頃の備蓄品、2012年は最多数がストックしていたものの、現在は減少傾向。 常にストックを切らさないよう心がけているのは東北～関西地方。

食料、飲料の備蓄割合はカップラーメンを除き昨夏が最も高く、現在はいずれも減少傾向にあります。とくに増減が激しいのは調味料(2012年は32.8%に対し2013年は18.6%で14.2ポイント低下)、冷凍食品(2012年は36.5%に対し2013年は23.1%で13.4ポイント低下)、肉・魚類(2012年20.5%に対し2013年は8.5%で12ポイント低下)でした。

また、居住地域別に備蓄意識を比較すると、ストックを切らさないよう心がけたり、定期的買い換えているのは東北～関西地方に高く、日常的に消費しながら随時買い足す「循環備蓄」を実践しているのは東北地方に多いことがわかりました。まとめ買いの割合が最も高いのは関西地方で、全国平均の3倍近くにのぼります。

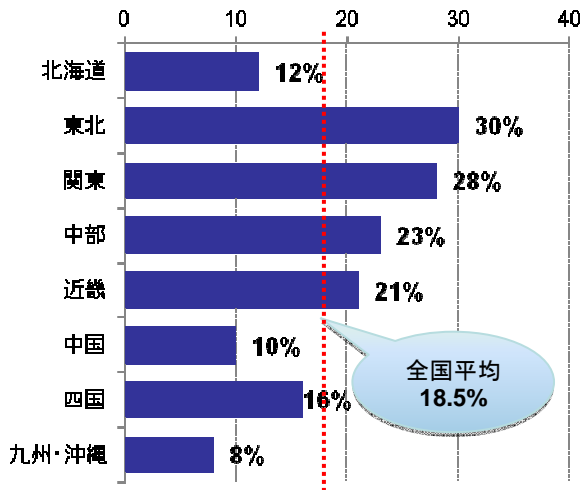
日常的に備蓄しているものをすべてお答えください。



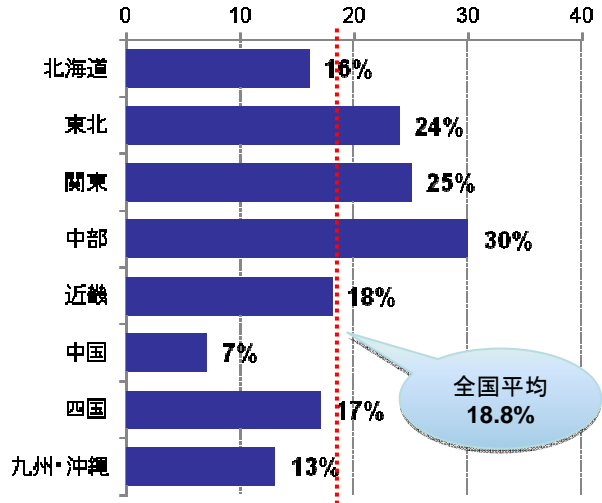
(MA、単位:%、n=800人)

家庭での備蓄に関して、どのような工夫をしていますか？

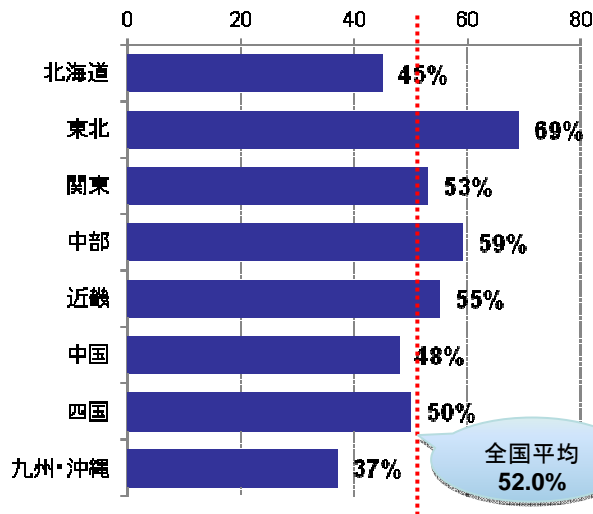
常に備蓄品を切らさない



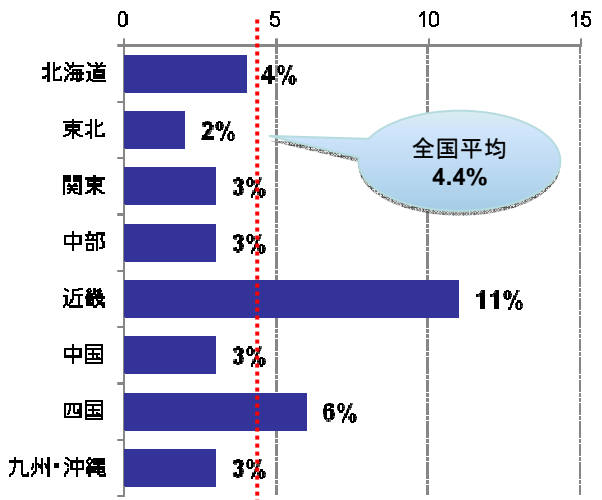
定期的に買い替える



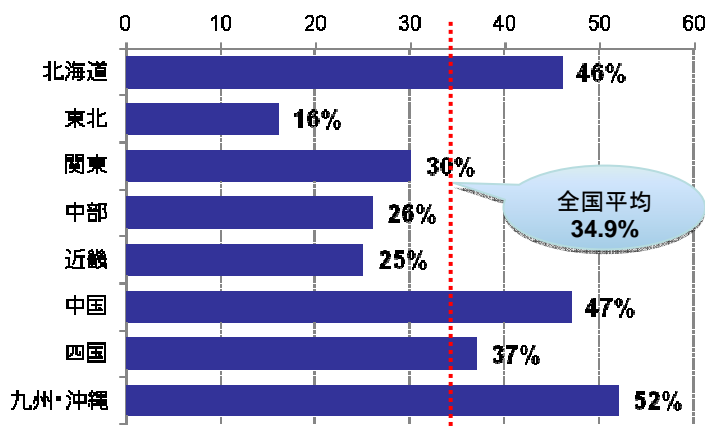
日常的に消費しながら、
随時買い足す



まとめて一気に買う



特に何もしていない



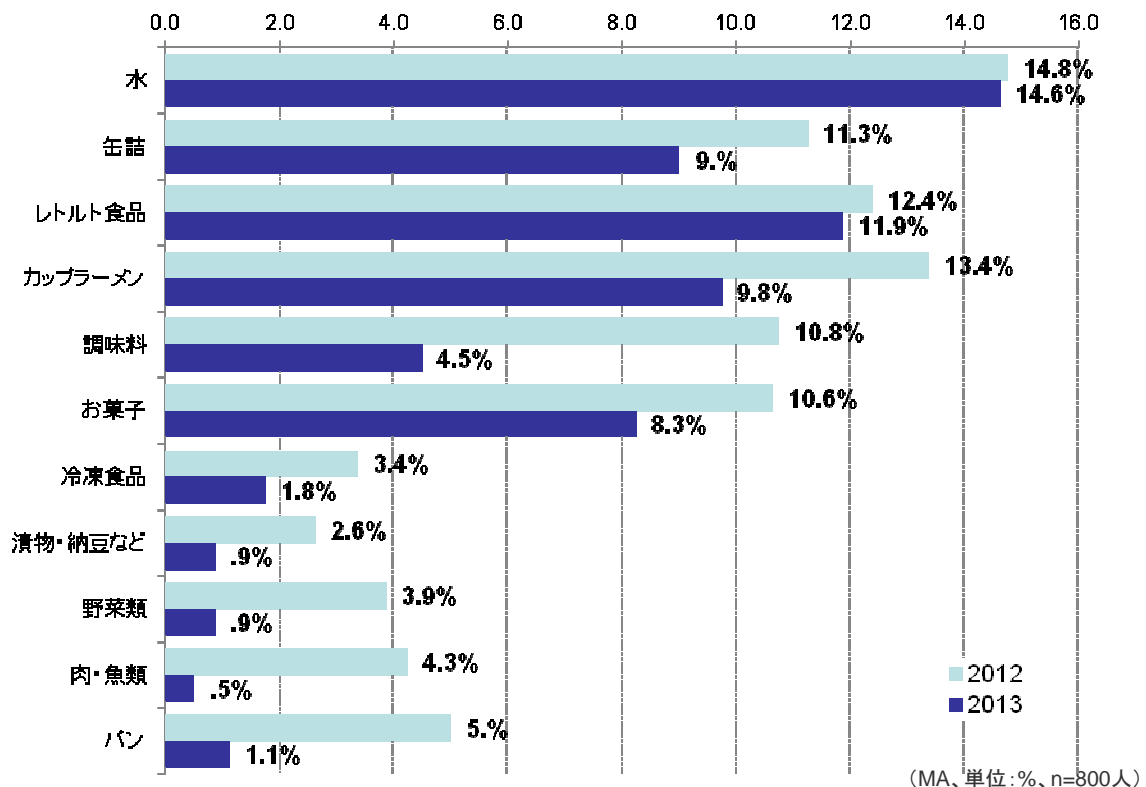
(すべてMA、単位:%、n=800人)

**③期限切れを起こしたことがある備蓄品、昨年に引き続き1位は「水」。
1年間でムダにした水は平均777.7円、昨年よりも404.4円減少。**

備蓄品の期限切れを経験したことのある人は14.6%で、最も期限切れを起こしていたのは昨年同様「水」(117人)という結果になりました。期限切れした水は経験者一人あたり777.7円と昨年よりも404.4円減少しており、期限切れした食品の平均総額も198.8円から177.1円に減少していました。さらに期限切れを起こしている人の割合もほぼ全ての品目で減少しており、大量にストックしたまま消費せず「ムダ」を起こしてしまう人は減りつつあると考えられます。

ただし、品目別のムダとなった額を昨年と比較すると、米(差額916.6円)、お菓子(差額499.6円)、パン(差額214.3円)、調味料(差額175.9円)などは金額が上昇しており、嗜好性の高い食品は「ムダ」を起こしやすいのではと推測されます。

消費する前に期限が切れてしまった備蓄品はありますか？



期限切れを起こしたことがある食品ランキング

2012年		平均金額	人数
1位	水	1182.2 円	118人
2位	カップラーメン	905.6 円	107人
3位	レトルト食品	2166.7円	99人
4位	缶詰	1010.1円	90人
5位	調味料	1074.1円	86人
6位	お菓子	901.9円	85人
7位	パン	785.7 円	40人

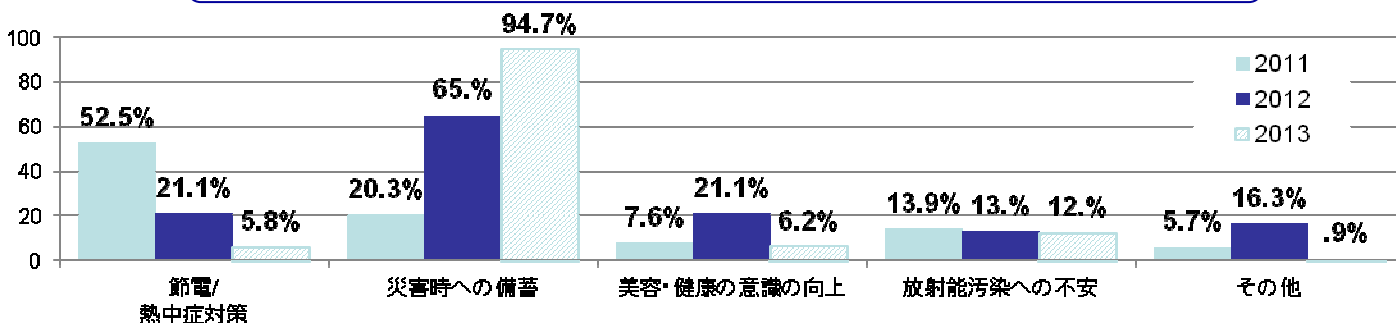
2013年		平均金額	人数
1位	水	777.7円	117人
2位	レトルト食品	1168.4 円	95人
3位	カップラーメン	692.3 円	78人
4位	缶詰	909.7 円	72人
5位	お菓子	1401.5 円	66人
6位	調味料	1250.0 円	36人
7位	冷凍食品	1142.8円	14人

(MA、n=800人)

④水の備蓄量が震災前よりも増えた理由、「災害時への備え」が大幅に上昇し94.7%に。

現在、震災後よりも水の備蓄量が増えたという人にその理由を尋ねたところ約95%の人が「災害時の備え」と回答。ライフラインとしての「水」の重要性を認識している人が多いことがうかがえました。

東日本大震災前より現在の水の消費/備蓄量が増加した要因はなんですか？



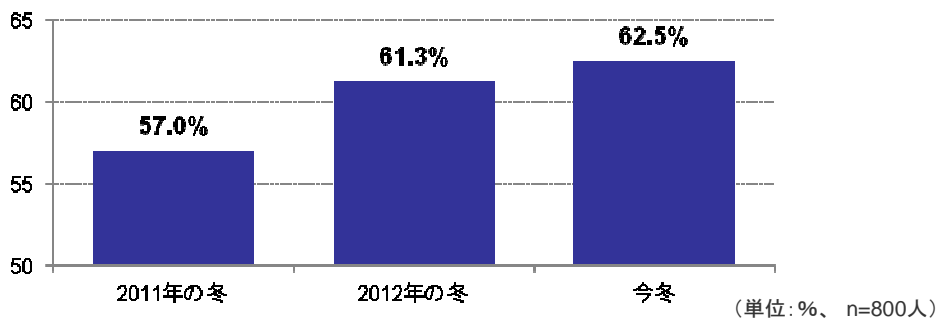
(MA、単位：%)
n=東日本大震災前より現在の消費/備蓄量が「増えた」と回答した人158人[2011年]、123人[2012年]、225人[2013年]

⑤節電意識は年々上昇。節電対策を実践している人は62.5%にも。

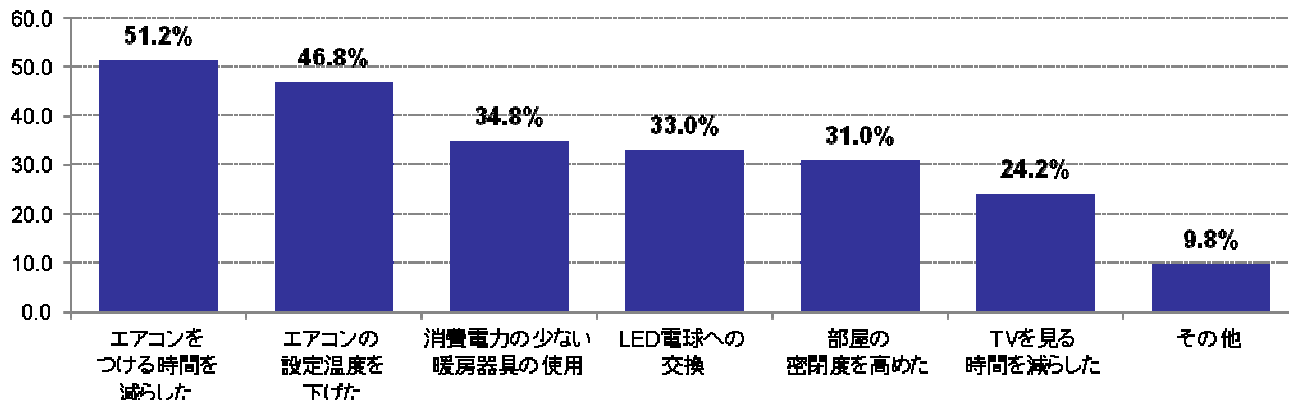
直近の数カ月、具体的な節電対策を行った人は62.5%。昨年・一昨年の冬と比較しても、節電を実践している人の割合が年々高くなっている傾向が見られました。環境面への配慮の他、実際に電気代が上昇していることなども関係しているのかもしれませんが。

実践している節電対策としては、エアコンの稼働時間を減らしているという回答が最も多く、唯一、過半数の回答を得ました。

ご家庭で具体的な節電対策は行っていますか？



具体的にどのような節電対策を行っていますか？



(MA、単位：%、n=節電対策を行なっている500人)

スマートチェックとは？

日頃から水、非常食などを備蓄することは大切ですが、その量が適正でないと賞味期限が切れてしまったり、災害時に持ち出せないなどの「ムダ」へつながってしまいます。これらは備蓄品を定期的に見なおすことで、防げます。“災害時に備えた正しい量の水・食材のストック”、すなわちスマートストックを行うには家計と同じように「スマートチェック」を行うことも大切です。以下のURLでは、ご家庭の備蓄量と内容が適正かどうかをご確認いただけます。

スマートストックチェッカー

大人(男) 1人 大人(女) 1人 子ども 1人

家族のスマートストックの量を計算する

3 人家族の場合 → 無洗米必量(3日分) 推奨ストック量 1.9 kg + アルカリイオンの水 2ℓボトル 15本 約 2.5 ケース

http://www.beverage.co.jp/alkali/smartstock/smart_check.html

「キリン アルカリイオンの水」について

- 1.商品名 「キリン アルカリイオンの水」
- 2.発売地域 全国
- 3.容量・容器 2Lペットボトル 500mlペットボトル
- 4.価格 230円(2L) 130円(500ml)
※消費税抜き希望小売価格
- 5.商品特長 富士山がゆっくり育んだおいしい天然水をアルカリイオン化した、口あたりまろやかですと飲める、日本人が飲み慣れているやさしい味わいの軟水です。毎日の水分補給はもちろん、ごはんを炊いたり、いろんなお料理にも使える、家族のからだにやさしい水です。家族と水のより豊かな関係をまじめに考えるアルカリイオンの水は、もしもの時に備える「スマートストック(循環備蓄)」やこまめに水分をとる「ウォーターローディング(運動時の水分補給法)」を推奨しています。
※2Lペットボトルの採水地は静岡県御殿場市(富士山の伏流水)、500mlペットボトルは静岡県焼津市です。



<報道関係者様からのお問合せ先>

キリン「アルカリイオンの水」PR事務局(株)イニシャル内) 担当:丸山・秋山・村木
〒107-0052 東京都港区赤坂-15-1 赤坂ガーデンシティ 18F
TEL: (03) 5572-6064 FAX: (03) 5572-6065

※本リリースをお送りさせて頂いている皆様の個人情報は、株式会社アンティルの個人情報保護方針に基づいて、厳重に管理させて頂いております。今後、弊社からのニュースリリースの配信を希望されない方は、恐れ入りますが privacy@vectorinc.co.jp までご連絡をお願い致します。